

# 有明海西南部地区ノリ養殖生産安定対策事業

岩永卓也・三根崇幸

有明海西南部地区のノリ生産安定を図るため、同地区の流況および生態系モデルの構築に必要な植物プランクトンの出現状況等の調査を実施した。

## 方法

2021年10月から2022年3月にかけて、週1~2回程度の定期調査を実施した。図1に示す白石沖ブイおよび箱崎沖ブイにおいて、昼間満潮の前後2時間以内に採取した海水を持ち帰った後、*Skeletonema* spp.および*Chaetoceros* spp.の細胞密度および溶存無機態窒素（DIN）を測定した。

## 結果

2021年度ノリ漁期の白石沖ブイおよび箱崎沖ブイにおける*Skeletonema* spp. および*Chaetoceros* spp.の細胞密度とDINの推移を図2および図3に示した。

白石沖ブイのDINは10月25日、11月5日、11月8日、11月22日、12月7日、1月5日、1月25日および3月24日で、概ねノリの色調維持に必要とされる $7\mu\text{M}$ 以上であった。*Skeletonema* spp.および*Chaetoceros* spp.の細胞密度は、DIN値が高い時に増加する傾向があり、特に1月18日から2月1日における細胞密度は高い値を示した。2月8日以降のDINは3月24日を除き概ね $1\mu\text{M}$ 以下と低い値で推移した。

一方、箱崎沖ブイのDINは調査期間を通して $7\mu\text{M}$ 以下で推移した。*Skeletonema* spp.および*Chaetoceros* spp.の細胞密度は、11月2日から11月22日および1月14日から2月15日までの長期間で高い傾向にあった。

細胞密度の増加後の11月16日から1月2日および1月25日から3月16日のDINは $1\mu\text{M}$ 以下と非常に少ない値で推移した。



図1 海況調査地点

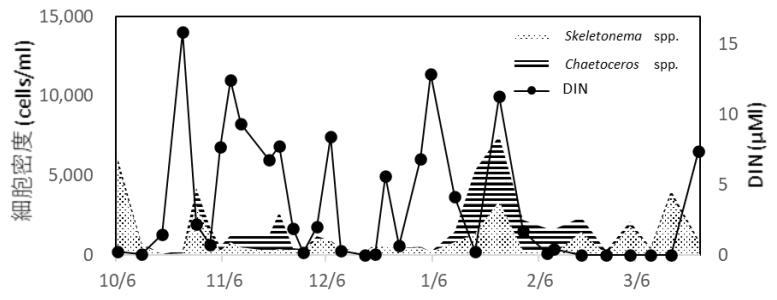


図2 白石沖ブイにおける*Skeletonema* spp.および*Chaetoceros* spp.の細胞密度とDINの推移

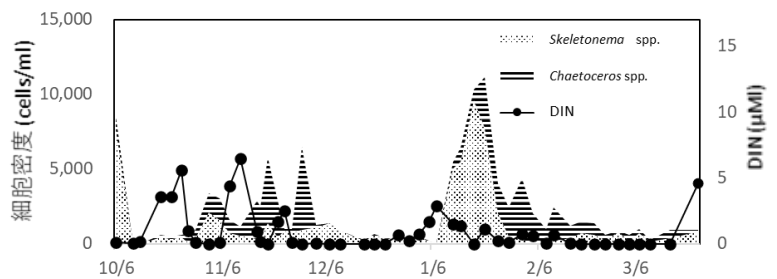


図3 箱崎沖ブイにおける*Skeletonema* spp.および*Chaetoceros* spp.の細胞密度とDINの推移